

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	国語 I B	
科目基礎情報						
科目番号	0008		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科		対象学年	1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 嶋中 道則・他編「精選言語文化」(東京書籍) 参考書: 「精選言語文化 準拠学習課題ノート」(東京書籍), 石谷春樹編「日本近代文学選 増補版」(アイブレーン)					
担当教員	久留原 昌宏					
到達目標						
古典学習を通じて、当代の人間の考え方や生き方を知ることから始まり、加えて現代に生きる日本人として必要な「古典文学」の基礎知識の獲得と読解力の向上を果たすことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わい理解することができる。		古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。		古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱しても、特有のリズムや韻などを味わうことができない。	
評価項目2	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。		代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えることができる。		代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解したり、人間・社会・自然などについて考えることができない。	
評価項目3	教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。		教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を理解できる。		教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を理解・習得することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	本科目は、高等専門学校の国語の基礎能力を「古文・漢文」の分野を中心にして身につけさせる。まず、「古典」学習の意義(1)当時の人々の考え方、生き方を知る。(2)古典を通じて現代の自分たちの生活、考え方、生き方を捉えなおす。)を再確認する。具体的には、中学校までの古典学習の総復習を含めながら、高専生としてそして現代に生きる日本人として、必要な古典文学の基礎知識の獲得と、読解力の向上をねらいとする。					
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> すべての内容は学習・教育目標(A)の<視野><意欲>、及び(C)の<発表>に対応する。 授業は講義・演習形式で行う。講義中は集中して聴講する。 「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。 					
注意点	<p>〔達成目標の評価方法と基準〕 下記授業計画の「到達目標」のすべてを網羅した問題を1回の中間考査、1回の定期考査とレポート・小テスト等で出題し、目標の達成度を評価する。各「到達目標」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p> <p>〔学業成績の評価方法および評価基準〕 後期中間・学年末の2回の試験の平均点を70%、課題提出、小テスト、授業中の問題演習への取り組み等の結果を30%として評価する。ただし、後期中間・学年末の2回の試験ともに原則として再試験は行わない。</p> <p>〔単位修得要件〕 与えられた演習課題を提出し、学業成績で60点以上を修得すること。</p> <p>〔あらかじめ要求される基礎知識の範囲〕 中学校卒業程度の国語能力、特に「古文・漢文」についての基礎学力を身につけていることを前提とする。</p> <p>〔レポート等〕 理解を深めるため、すべての教材に演習課題を与える。また、古典文法小テスト、課題提出等を課する。</p> <p>〔注意事項〕 授業中は学習に集中し、内容に対して積極的に取り組むこと。また、課題は期限厳守して提出すること。なお、本教科は後に学習する国語Ⅱ、日本文学。言語表現学、文学概論の基礎になる科目である。</p>					
授業の属性・履修上の区分						
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
	週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 古文入門および学習方法について		1. 「古典」の学習の目当ての意義を理解し、学習する意義を確認する。	
		2週	古文入門および学習方法について (歴史的仮名遣い・いろは歌・五十音図) 「児のそら寝」(『宇治拾遺物語』)①		2. 音読を通して現代文との違いに注意しながら、古文を読むための基礎(歴史的仮名遣い等)を理解している。 3. 登場人物の心理に注目して、古文の世界を理解し、古文を読むための基礎(品詞等)を理解している。	
		3週	「児のそら寝」(『宇治拾遺物語』)②		上記2・3に同じ。	
		4週	古文の文法(品詞分類・用言と活用形・動詞・形容詞・形容動詞)		4. 古典文法の基礎学習(動詞・形容詞・形容動詞)の学習内容を理解している。	
		5週	随筆 「つれづれなるままに」(「徒然草」)		5. 前期中間試験の内容を理解した上で、三大随筆のそれぞれの文学的価値を理解している。	
		6週	随筆 「ある人、弓射ることを習ふに」(「徒然草」)①		6. 兼好法師の人生観および「徒然草」の世界観を理解し、古典文法の基礎学習の学習内容を理解している。	
		7週	随筆 「ある人、弓射ることを習ふに」(「徒然草」)② 前期中間までの復習		7. 古文を読むための基礎(係り結び等)を理解し、前期中間までの学習内容を理解している。	
		8週	前期中間試験		前期中間試験	

4thQ	9週	前期中間試験の解説と総括 漢文入門 訓読の基本①「訓読」	8. 前期中間試験の内容を理解した上で、漢文の特色を学んで、漢文訓読の基礎(訓点・書き下し文等)を理解している。
	10週	漢文入門 訓読の基本②「格言」(返読文字)	9. 漢文の特色を学び、漢文訓読の基礎(置き字・再読文字等)を理解している。
	11週	漢文入門 訓読の基本③「格言」(置き字)	上記8・9に同じ
	12週	漢文入門 訓読の基本④「再読文字」	上記8・9に同じ
	13週	寓話 「借虎威」(「戦国策」)①	10. 寓話の学習を通して、戦国時代の諸国と遊説家の言行を理解し、漢文の句法(禁止・使役等)を理解している。 11. 寓話の学習を通して、文学史的価値を理解し、漢文の句法(反語・断定等)を理解している。
	14週	寓話 「借虎威」(「戦国策」)②	上記10・11に同じ
	15週	前期未までの復習 授業のまとめ(アンケート)	上記8～11に同じ
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
			論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	3	
			文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3	
			常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
			社会生活で使われている故事成語・慣用語の意味や内容を説明できる。	3	
			専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
			実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
			報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
			報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
			作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3				

評価割合

	試験	課題・提出物	小テスト・発表		合計
総合評価割合	70	15	15	0	100
配点	70	15	15	0	100